

まんさく

第303号

社会福祉法人 光寿会
まんさく編集委員会
和賀郡西和賀町湯本30-76-1
TEL 0197-84-2526
koujhu@fancy.ocn.ne.jp
題字 元理事長 太田 祖 電



ひなたぼっこ『お茶会』の様子

お茶会は月1回、通いサービスの体験として開催中。

303号『まんさく』もくじ

☆2頁★

- *今生より往く
- *光寿苑のお年寄りを護る会

☆5頁★

- *元気です！家族会♪
- *リハビリ効果は真心から

☆3頁★

- *想…災害を捉える
- *職員募集！

☆6頁★

- *「光寿苑の日々」(4コマ漫画)
- *「自然法爾」(おきさんのお話)

☆4頁★

- *地域密着型事業紹介
- *寄附・寄贈・訪問等紹介 等

*「おわりに」

『今生より往く』



大切な事を決して忘れない心で



穏やかな表情で傍に寄り添う心で

淀川 ミヨさん【83歳】

食べるのが大好きだったミヨさん。娘さんたちからの差し入れをもとても楽しみにされていましたね。また、お話し好きで、職員の話の中にも我が事のように自然としゃべり込んで来る辺りは、ミヨさんならではでした。もっと沢山の時と一緒に過ごせたらよかったです。

【担当：高橋辰光・金子利加子】

佐々木タカさん【98歳】

踊りが好きな方でした。沢内甚句を流すと、手踊りしている姿、今でも鮮明に覚えています。盆踊りの時のねいりはち巻きに満面の笑顔も忘れられません。晩年、物静かでありながらも、色々な場面で「芯の強さ」を見せてくれました。タカさんとの楽しい時間、ありがとうございました。

【佐藤俊子・柴田真衣】

光寿苑のお年寄りを護る会 令和6年7月29日

入居のお年寄りの気持ちとケアに当たる職員の気持ちのギャップを埋めるべく、第三者委員の方々が出向いて拝聴下さる会。最終的には昔話の拝聴の時となっていく豊かな時間です。



【苦情解決相談員 高橋妙子氏より助言】
相談員の方々の言葉掛けの内容や話し方が良く、流れを作るのが上手で、いらしたお年寄りの皆さん、喜ばれていた。ただ、日常の悩みを話すとなると、今は相談員に囲まれた形式での会話なので、出しづらいのかも知れないと思った。一対一の形式だと出やすいのかも…。

想... 災害を捉える 宮城県から発信します⑪

『3.11 [5]』 白木澤 琴 氏



宮城県の僧侶・白木澤琴さん11回目のご執筆です。今回も3.11シリーズであります。復興へ向けた人たちの当時の熱き願いを強く感じさせられます。

『3.11 [5]』

東日本大震災発生から約二週間後の3月28日、お寺の臨時総代会が開かれ、玉蓮寺復興に向けた実行委員会を立ち上げることが決定。建築関係に詳しい方々などを中心に、委員も選出された。そして、4月15日、第1回玉蓮寺地震災害復興実行委員会が発足し、本格的な修復に向けた動きが始まった。総代さん方も、ご自宅の被害がある中で、

「まずは、開法道場としてのお寺を修復せねば！」と、ご尽力下さったことに、ただただ恐縮するばかりだった。

実行委員会発足後、施行業者、設計士の選出、資金面のこと、施工方法等について繰り返し議論がなされた。

本堂の修復は、山形の宮大工さん、分院は地元の大工さんに決定。資金面については融資に加えて、御本山や有縁の方々からのお見舞い、そして御門徒の皆様からの御寄進、保険等によって支えていた

約半年間の修復工事中は、毎日、10時と15時には大工さん方にお茶出しも。その休憩の際に、皆が重ねた何気ない会話も修復に反映してくださるなど、親身になって工事に取り組んでくださった。気が遠くなるような被害状況だったが、真夏の炎天下でも作業が続き、その年の11月末には無事修復が完了。軒余曲折あったが、一同、大きく安堵したのだった。

修復完成の翌年、玉蓮寺報恩講の講師として太田祖電先生がお越しくださった。その冒頭がお話された言葉が忘れられない。

「立派に、立派に修復してください。皆さまの念力の強さ、深さ、粘り強さ、そうしたものさ、なんとなかの開法の道場としてのこの玉蓮寺というものを、すっかり守っているという皆さまのお心のあらわれだと思っていて、大変大変、私は驚いたのではありません。本寺にありがたうございました。」と。深々と頭を下げて、修復に

職員募集

介護職員、調理職員を初め、送迎業務や営繕管理、除雪などもできる方も探しております。

一度、ぜひ、お問い合わせ下さい。

【代表 0197-84-2526】

白木澤 琴

真宗大谷派 玉蓮寺

【続く】

協力くださったご門徒の方々へ、御礼の言葉を話されたことに、私は驚いたのだった。

祖電先生自身も開法道場としての寺の復興を喜んでくださり、玉蓮寺は、わがこころのふるさとです。

「と云ってくださった。単に建物が直ったのではなく、そこには門徒さん方の願いがある。」

「開法道場」としての場を大切に守っていかうと、身の引き締まる思いがしたのだった。

今月の登録者の方々

15名様です♪

小規模多機能ホーム「ひなたぼっこ」
住宅型有料老人ホーム「湖畔の宿」

西和賀も避暑地にあらず！「ひなたぼっこの日常」



左 『お茶会…風鈴絵付け』
右 『ある日のデイの日常』

第2回『運営推進会議』(7月25日)

△委員9名、職員4名▽

委1 今年度も引き続き掲げられたテーマ「地域住民との交流を深め、得た情報を活かす」とあるが、正に我々委員が果たすべき大きな役割でもあるかと思う。情報の提供・共有はとても大事である。(一ヶ月うなづく)

委2 利用者数が増減ない様だが、利用希望等の相談は何件か来ているものか？

職1 昨日、野外の施設の方から湖畔の宿入居についての問合せがありました。利用料金のことや、自炊できなければ利用は難しいか？等の内容でした。また、今会議の利用者数は6月末日のもので、7月からは通所が1名増となっていて、定期点検等を行っているか？

職2 定期点検は行っておりません。年2回の消防設備点検(委託業者)時に、状況に応じて確認はしています。

委2 K公民館にもAEDが設置されていたが、定期点検は費用も掛かる事からそのままにしていた事があった。普段無人のため、真冬の極寒の中でバッテリーが上がり、ブザーが鳴りっぱなしの状態になった。これはマズイ！と思う、バッテリーを外してしまった。これは緊急時に使用できない。現在は定期点検、確認を行っている。

職3 持続可能な業務継続計画(BCP)では、目次に「他施設・地域連携」とあります。関係者のみでは対応は困難。地域の委員の皆様のご協力を願います。

おかげさまでした

- 寄贈** ★=光寿苑 ☆=ひなたぼっこ
- ☆ 高橋 美智子 様 [上野々]
 - ☆ 高橋 ちづ子 様 [下 前]
 - ☆ 加藤 真喜子 様 [新 町]
 - ☆ 石川 顕 様 [盛岡市]
 - ☆ 杉谷 政行 様 [横手市]

- 面会・外出** [7月1日~31日]
- 【対面面会】 延べ88名 (対象入居者31名)
- 訪問**
- 7月29日「入居者の相談事等の拝聴」
- ★ 光寿苑のお年寄りを護る会 … 1名

光寿会へのご支援

元気です！家族会♪

「汽車、汽車」

118回目も家族会役員・佐々木忠雄さんの投稿です(^^)今回は「おっ!?!」と興味をそそられる「汽車、汽車」です。



家族会副会長
佐々木忠雄氏

某テレビ局に、「初めてのお使いし」という番組がある。大人たちが影からしっかりと後をついて行き、幼い子どもが近所の商店などにお使いに行く人気番組です。安全な国、日本だから成立する話だと思ふのですか。

私も小さい頃から、よく一人でバスや汽車に乗って横手や北上に行かされていました。ほとんどが病气やケが、あとは北上の姉の所に行っていました。

学校で縄跳びをしていて縄か足にぶつかかり、不規則に跳ねた縄が目に当たって目が真っ赤に腫れて見えなくなり、横手の眼科に。耳鼻科にも

行っていました、耳が弱か、たので。

最初の一回だけ母と二人で病院に行き、次からは一人で行かされていきました。母が仕事を休めなかったのと、多分父は出稼ぎ中だったような気がします。北上の姉の所に行った時は、帰りの汽車の中で寝てしまい、気づけば横手で行ってしまったことも。横手から川尻に戻っていた時も寝てしまい、仙人の駅で目が覚め、慌てて降りたことも。その時は駅の人に引き返す汽車にすぐ乗せて頂きました。汽車内には新婚さんかいて、私を湯本の旅館まで連れてきてもらいました。母は、ケがもななく帰ってきてホッとしたことと、新婚さんへの感謝を盃んに述べていました。

とにかく何回も取を乗り過ぎるので、母はあまり心配しなくなりました。何時も何とか無事だったので慣れたのかな。

「続く」

リハビリ効果は真心から



老人保健施設清水苑の作業療法士・伊藤敦史先生は、『自施設で関わったお年寄りに、その後も元気でいて欲しいから』という思いで、休みの日を利用して光寿苑に奉仕で出向下さっています。伊藤先生が見て下さるお年寄りたちが嬉しそうに歩いていらして、心から感謝です。



イラスト：1000

あらたまって「相談」となると、頭も心も固くなってしまふもの。護る会に赴かれる入居者のお年寄りたちも最初は緊張の面持ちと言動を発しながら部屋に入る。しかし、数分程で相談員の創り出す空気感によりリラックス。「また来てね」とお年寄りたち。

勝敗を離れた人は、幸いである。

《釋尊》

勝つ者怨みを招かん。

敗れたる者 苦しみて臥す。

冒頭の言葉には前が、右のように言われたという。

第102回

丸田善明

自然法爾 (じねんほうに)

だろうと思われている。

戦争の悲惨さというものは、終戦の調印では終わらない。戦いに敗れた人々の中に深く刻まれた憎しみは、次の

戦争を用意するだろう。戦いに勝った国の民も、その後長い間、敗者の怨みに怯えて生きなければならぬ。悲しいことに、これが「人間」というものなのだ。

釋尊は言う。

されど、勝敗を離れて

こころ安らかなる人は、

起居ともに幸いなり。

※「起居」：起きたり寝たりの日常の暮らし

おわりに

先月号をされたためですが、私は「半世紀おじさん」に成った。生誕から実に半世紀を生きてきた事である。リッソんなったが、い、何とも言葉にし難い中で、しみみと振り返っている。語れば色々な事があった。自分も周りも大きく変わった事もある。意味はぼやけたりしない。見たら、一つ大きく変わった事がある。朝5時に起きて、犬の散歩が日課になった。自他共に驚きの事なのだ。幼少期、近所の犬2匹に襲われて以来、犬恐怖症の人生だった。アニマルセラピーなど以下の外、とこから数年前、1匹の犬との出遇いが、私の偏見を打ち破ってくれた。人生の壁は、己の中にある。

※戯れたのでしよう、犬ちゃんはね。